琉球大学学術リポジトリ

沖縄県在住祖母の育児支援，身体活動およびHRQOLとの関連

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-08-24 キーワード (Ja): キーワード (En): grandmother, grandparenting, physical activity, health-related quality of life 作成者: 遠藤, 由美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019323

（様式第５－３号）

2021年　12月　23日

琉球大学大学院
保健学研究科後期課程委員会　殿

論文審査委員
主査　氏　名　　照屋　典子
副査　氏　名　　國吉　緑
副査　氏　名　　原嶋　奈々江

学位（博士）論文審査及び学力確認の終了報告書

学位（博士）の申請に対し，学位論文の審査及び学力確認を終了したので，下記のとおり報告します．

記

申　請　者	氏　名　　遠藤　由美子				
成績評価	学位論文	(合格)	不合格	学力確認	(合格)　不合格
論文題目	Relationship between child-rearing assistance, physical activity, and health-related quality of life among Okinawan grandmothers				

審査要旨（２，０００字以内）

本論文は，18歳以下の孫をもつ沖縄在住の女性(祖母)69名を対象に，孫の育児支援，身体活動，健康関連クオリティオブライフ(HRQOL)の実態及び育児支援と身体活動，HRQOL(SF-8)との関連を明らかにすることを目的として行われた．分析対象者48名(年齢中央値62歳)の身体活動は，3軸加速度計を用いて測定した結果，座位状態が357.1分／日(43.0%)，軽強度身体活動(LPA)が441.1分／日(加速度計装着時間の51.4%)，中高強度身体活動(MVPA) が46.0分／日(5.7%)で，今回の対象のMVPAは米国スポーツ医学会が推奨するMVPA基準(30分／日)を満たしていたことが明らかとなった．LPA，MVPAにおける身体活動の種類では，非歩・走行活動(non-locomotive)が歩・走行活動(locomotive)に比べ，その割合が高くなっていた．階層クラスタ分析の結果，育児支援は，①非日常的な社会文化的・経済的支援22名(46%)，②身体的支援16名(33%)，③総合的支援(社会文化的・経済的支援，家事，身体的支援等含む)10名(21%)の3パターンに分類された．また，主に世話をしている孫の年齢による育児支援特性別の身体活動は，4-6歳児の世話をしている対象は座位時間

が少なく，3歳以下及び4-6歳の世話，孫の送迎に関わっている対象はMVPA時間が有意に長かった．対象全体の身体活動とHRQOLとの関連性の検討では，LPA(locomotive)時間は身体機能と，MVPA(total, locomotive)時間は身体役割機能と，MVPA(locomotive)時間は精神的QOLの要素である活気と有意な正の相関が認められ，孫の育児支援による身体活動と身体的QOL(身体機能，身体役割機能)及び精神的QOL(活気)との関連が示唆された．また，主に世話をしている孫の年齢による育児支援特性別の身体活動とHRQOLとの関連の検討では，3歳以下の孫を支援している対象(21名)のLPA(total, non-locomotive)時間とMVPA(total) 時間は身体の痛みのなさと有意に関連し，MVPA(locomotive)時間は身体的役割機能と活気との有意な正の関連がみられ，4-6歳の孫の育児支援をしている対象(13名)においてもLPA(total, non-locomotive)時間と身体機能，活気との有意な関連性が認められた．以上のことから，孫の非日常的支援を提供している祖母の身体活動は適切なレベルであり，身体的及び精神的QOLに有意に関連することが明らかとなった．

本審査では，本研究の背景や方法，結果，考察に関するプレゼンテーションが行われ，予備審査で指摘された事項について，再分析を行った結果及び結果の解釈に関するLimitationについても追加で言及されていた．質疑応答では，方法論やデータの解釈，今後の研究の方向性について質問があったが，申請者は質問者の意図を捉え，適切に応答していた．

本研究は，沖縄県在住の限定された対象の結果ではあるが，これまで，祖母による孫の育児支援の状況と客観的指標による身体活動の実態及び身体活動とHRQOLとの関連性について検討した研究は存在せず，実際に測定した身体活動時間のデータをもとに，孫支援を提供している祖母の身体活動が身体面や精神面のQOLに良好な影響をもたらすことを明らかにした意義は大きいと考える．今後は本研究の成果をもとに，孫に限らず，高齢者による幼児の育児支援活動を地域社会へ展開していくことで，高齢者の身体機能や精神面のQOL向上に期待できる．

以上のことから，申請者は研究内容を十分理解し，審査過程においても主査，副査の指摘事項や質問者の質疑に適切に対応出来ていた．また，本論文は，国際誌 Journal of Intergenerational Relationships に掲載された学術論文をもとに作成されていることから保健学博士論文としての基準を満たし，学位論文，最終試験ともに『合格』とした．